

# 青森県防災対策強化検討委員会報告書 概要版

<抜粋>

平成30年3月  
青森県防災対策強化検討委員会

# 5. 青森県の想定災害①

## 地震・津波

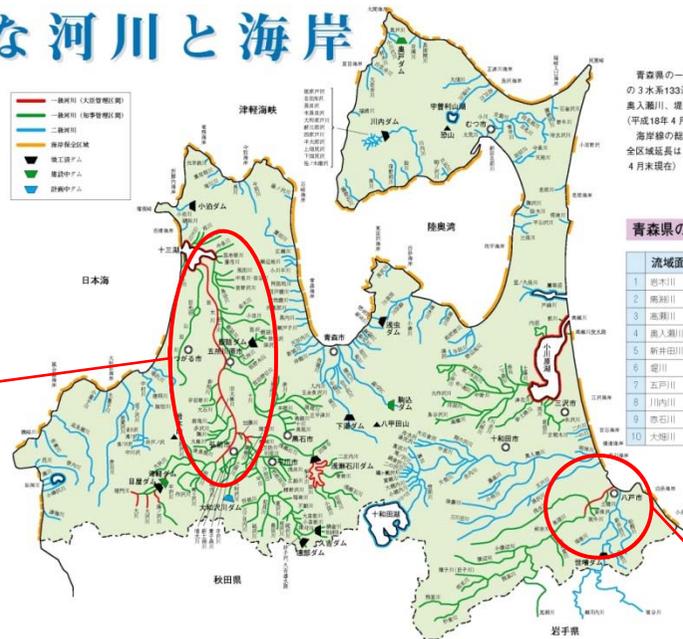
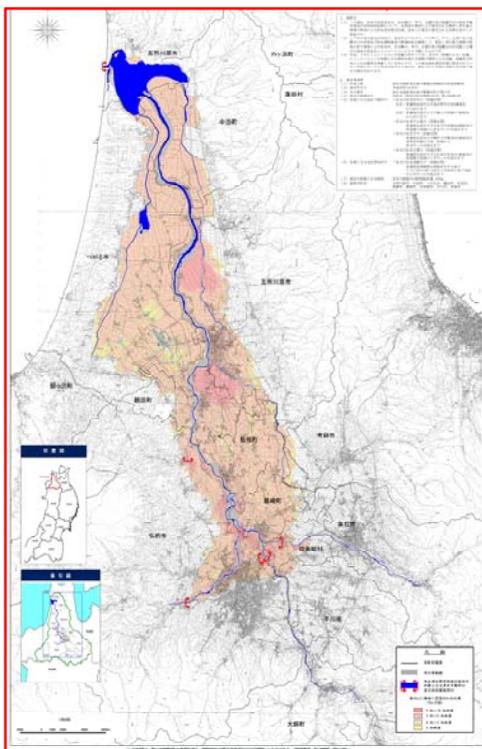
		太平洋側海溝型地震 青森県地震・津波被害想定調査 (H24~H25)	日本海側海溝型地震 青森県地震・津波被害想定調査 (H28)	内陸直下型地震 青森県地震・津波被害想定調査 (H24~H25)
震度分布	震度分布	<p>凡例</p> <p>250mメッシュ 地震震度上 計算震度 気象庁震度階級</p> <p>震度7以上 震度7 震度6.5 震度6.5 震度6 震度6 震度5.5 震度5.5 震度5 震度5 震度4.5 震度4.5 震度4 震度4 震度3.5 震度3.5 震度3 震度3 震度2.5 震度2.5 震度2 震度2 震度1.5 震度1.5 震度1 震度1 震度0 震度0 震度0以下 震度0以下</p>	<p>凡例</p> <p>震度6強 震度6弱 震度5強 震度5弱 震度4</p>	<p>凡例</p> <p>250mメッシュ 地震震度上 計算震度 気象庁震度階級</p> <p>震度7以上 震度7 震度6.5 震度6.5 震度6 震度6 震度5.5 震度5.5 震度5 震度5 震度4.5 震度4.5 震度4 震度4 震度3.5 震度3.5 震度3 震度3 震度2.5 震度2.5 震度2 震度2 震度1.5 震度1.5 震度1 震度1 震度0 震度0 震度0以下 震度0以下</p>
	液状化危険度	<p>凡例</p> <p>液状化危険度 (PL値) 【太平洋側海溝型地震】 PL値 15以上 PL値 5~15 PL値 0~5 PL値 0 ※液状化の可能性が極めて低い</p>	<p>凡例</p> <p>PL値 15以上 PL値 5~15 PL値 0~5 PL値 0</p>	<p>凡例</p> <p>液状化危険度 (PL値) 【内陸直下型地震】 PL値 15以上 PL値 5~15 PL値 0~5 PL値 0 ※液状化の可能性が極めて低い</p>
マグニチュード		9.0	7.9	6.7
人的被害	死者数	約25,000人	約6,900人	約2,900人
	負傷者数	約22,000人	約4,500人	約10,000人
物的被害	全壊棟数	約71,000棟	約12,000棟	約22,000棟
	半壊棟数	約130,000棟	約41,000棟	約42,000棟

# 5. 青森県の想定災害②

## 洪水

国土交通省及び県は洪水予報河川及び水位周知河川について、河川整備の計画降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定し、区域及び浸水深を公表している。

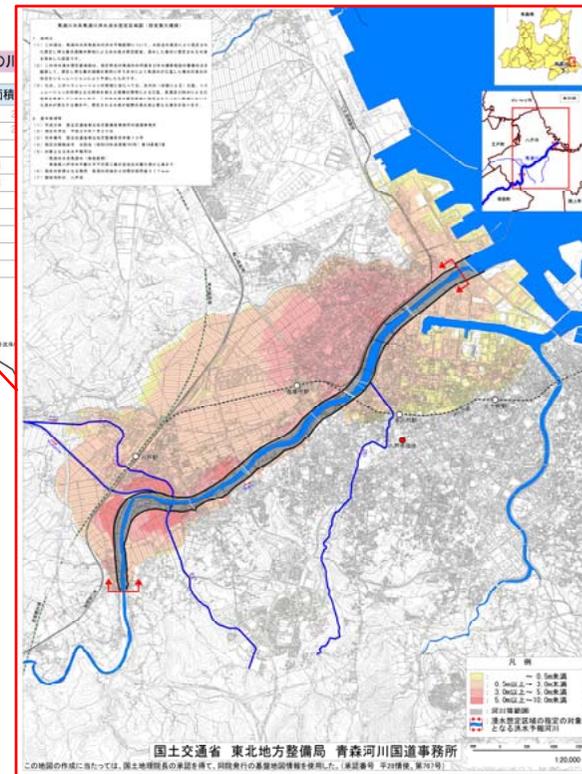
### 主な河川と海岸



青森県の一級河川は、岩木川、馬淵川、高瀬川の3水系133河川（直轄含む）です。二級河川は、奥入瀬川、瀬川等78水系154河川となっています。（平成18年4月末現在）  
海岸線の総延長は、752kmで、そのうち海岸保全区域延長は、409kmとなっています。（平成18年4月末現在）

青森県の川

流域面積
1 岩木川
2 馬淵川
3 高瀬川
4 奥入瀬川
5 新井田川
6 雫川
7 玉戸川
8 川内川
9 栗石川
10 大畑川



洪水浸水想定区域の指定状況

- ・国管理 7河川
- ・県管理 35河川
- 合計 42河川

## 5. 青森県の想定災害③

### 土砂災害

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域を土砂災害警戒区域として指定している。また、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域を土砂災害特別警戒区域として指定している。

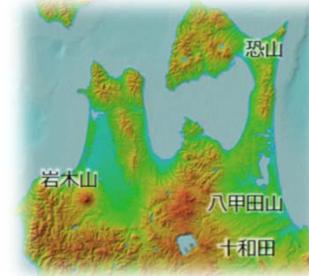
土砂災害警戒区域等に指定している土地を示した土砂災害警戒区域等マップで公表しており、平成29年12月31日現在では、4,037箇所を指定している。



# 5. 青森県の想定災害④

## 火山

青森県には、八甲田山、岩木山、十和田及び恐山の4つの活火山があり、これらのうち噴火の文献記録があるのは、岩木山と十和田である。



### 八甲田山

#### 【観測体制】

平成28年12月に常時観測火山へ追加

#### 【火山活動】

2013年2月以降、大岳山頂直下付近が震源と推定される火山性地震が発生し、同年4月下旬から7月中旬にかけて増加したが、7月下旬以降は減少傾向となり、現在も火山性地震は少ない状態で推移。



### 恐山

#### 【観測体制】

—

#### 【火山活動】

過去1万年間の噴火を示す証拠は見つかっていないが、現在も宇曽利山湖の北岸で活発な噴気が見られる等、地熱・噴気活動が盛んなため、規模の小さな水蒸気噴火を起こしていた可能性がある。

### 岩木山

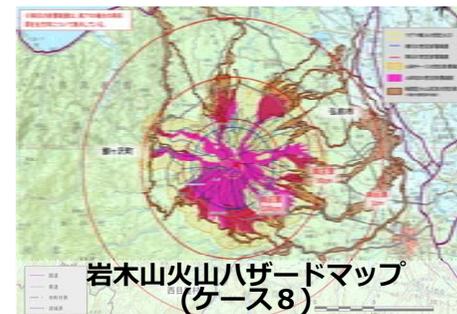
#### 【観測体制】

平成21年6月 常時観測火山に指定

#### 【火山活動】

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

平成28年7月26日の噴火警戒レベルの運用開始に併せて噴火予報発表（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）。



警戒レベル	概要	避難指示
1	噴火警戒レベル1は、活火山であることに留意する。	噴火警戒レベル1は、活火山であることに留意する。
2	噴火警戒レベル2は、噴火の発生による被害が拡大する可能性がある。	噴火警戒レベル2は、噴火の発生による被害が拡大する可能性がある。
3	噴火警戒レベル3は、噴火の発生による被害が拡大する可能性がある。	噴火警戒レベル3は、噴火の発生による被害が拡大する可能性がある。
4	噴火警戒レベル4は、噴火の発生による被害が拡大する可能性がある。	噴火警戒レベル4は、噴火の発生による被害が拡大する可能性がある。
5	噴火警戒レベル5は、噴火の発生による被害が拡大する可能性がある。	噴火警戒レベル5は、噴火の発生による被害が拡大する可能性がある。

### 十和田

#### 【観測体制】

平成28年12月に常時観測火山へ追加

#### 【火山活動】

十和田湖の中湖付近、深さ5kmを震源とする火山性地震が平成28年7月22日に5回、23日に16回と一時的に増加したが、現在は火山性微動は観測されておらず、噴火の兆候は認められない。

